

日本労働年鑑 第50集 1980年版
The Labour Year Book of Japan 1980

第二部 労働運動

XIV 政党

2 統一地方選と共闘問題

2 大阪府知事選をめぐる各党の動き

反黒田で社公民と自民のブリッジ共闘

七一年四月、社共共闘によって革新府政を誕生させた大阪では、同和行政をめぐる社共両党の対立が深刻化し、前回は、共産党対自民党対社・公・民三党による三つ巴の争いとなった。その結果は共産党単独支持の黒田氏が再選された。このため、現地では早くから、黒田府政打倒のため、社・公・民三党だけでなく、自民党も加えた「保革連合」の企てが進行していた。先行したのは労働組合で、七七年九月には大阪総評、大阪同盟、電機労連大阪地協の労働三団体が「黒田府政打倒」で知事選での共闘を決め、社公民三党によびかけた。その結果、七八年一月には社公民三党の大阪府本部、府連、さらに新産別も加わった労働四団体が「新しい大阪をつくる革新府民連合」が結成された。翌二月には、統一候補として自治省出身で、黒田知事のもとで副知事をつとめた岸昌氏を決定した。七八年八月には自民党大阪府連も岸氏の推薦を決め、社公民三党と自民党のブリッジ共闘が成立した。

社会党、岸氏の「革新性」を確認

しかし、「反自民、反独占」の立場をとる総評中央は、岸推薦に「待った」をかけ、大阪総評にたいし、「大阪府知事選については、岸推薦決定を留保し、再検討してほしい」との指示を文書で手渡した。大阪総評側はこれに強く反発し、数度のやりとりの結果、九月の大阪総評大会直前に総評中央は「岸氏の革新性を見守り、今後慎重に検討したい」とのただし書きつきで、いちおうの了承を与えた。大阪総評大会は激論のすえ、岸推薦をふくむ七八年度運動方針を賛成三二〇、反対一一三、保留四〇で決定した。

一方、社会党中央も岸氏の推薦にはきわめて慎重な態度をとりつづけた。七八年三月に府本部から岸氏の推薦について申請された社会党中央は、岸氏が「反自民、反独占の立場からたたかう人かどうか」即断できない。また岸氏が自衛隊の後援団体と関係があると報道されていることについても問題視し、容易にこれを決定しなかった。しかし、選挙戦が迫った七九年二月八日、社会党の中央執行委員会は、岸氏と社会党大阪府本部との確認、岸氏から飛鳥田委員長あての手紙（ともに『社会新報』七九年二月一三日付参照）で、岸氏の革新性がはっきりし、また「大阪防衛協会」の会員、「自衛隊を知る大阪の会」顧問は「新しい大阪をつくる革新府民連合」から推薦を受けた段階でやめたことが明らかになった、として同氏の推薦を正式に決定した。また新自由ク、社民連も岸氏を推薦した。

黒田知事、三選出馬

七九年一月二〇日、大阪府の黒田了一知事は「明るい革新大阪府政を作る会」および「革新大阪府政をすすめる各界連絡会」とのあいだで「第三期革新府政の政策大綱」について合意し、三選への出馬を表明した。なお、革新自由連合は黒田支持にまわった。

日本労働年鑑 第50集 1980年版

発行 1979年11月10日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年9月25日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1980年版(第50集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
